

# 平成27年度 本庄市交通政策協議会（埼玉県本庄市） （地域内フィーダー系統確保維持事業）

## 地域の公共交通の現況

現在、本市の主要拠点間の移動手段は、本庄地域と児玉地域(平成18年に本庄市と児玉町との合併により現本庄市となる)の間を結ぶ路線バスが担っている。しかし、急速な少子高齢化の進展や人口の減少、マイカーの利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持継続が困難な状況が生じている。また、従来の公共交通だけではカバーしきれない、いわゆる交通不便地域が点在している。



## 一部山村指定

## 事業の目的・必要性

交通不便地域の解消、また、高齢者等の交通弱者の移動手段確保を目的とし、市内の公共交通ネットワークを充実させることが喫緊の課題である。市内公共交通ネットワークを充実させるためには、基軸となる路線バスに接続するフィーダー系統の運行が必要である。フィーダー系統の運行により、公共交通を乗り継ぐことで市内を快適に移動することが可能になる。

面積	89.69km <sup>2</sup>
人口（H28.1.1時点）	78,993人
15歳未満	9,670人
65歳以上	20,469人
高齢化率	25.9%
世帯数	33,058世帯

## 事業の概要

市内の本庄地域と児玉地域を結ぶ路線バスを「地域間幹線系統」として運行し、両地域において地域間幹線系統に接続させる形で区域運行のデマンド型交通の運行をしている。また、交通結節点機能の充実を目的とし、本庄駅(JR高崎線)と本庄早稲田駅(上越新幹線)の両駅間を結ぶシャトル便(乗合バス型)を併せて運行している。

### 【デマンド交通:「はにぼん号」「もといずみ号」】

事業者名:朝日自動車株式会社  
 運行区域:①本庄北地域、②本庄南地域、③児玉市街地、④児玉山間地域  
 運行日:月曜～土曜(日曜、祝日、年末年始運休)  
 運行時間帯:8時～17時(④児玉山間地域のみ、8時前、18時以降に通学用の運行)  
 運行車両:ワゴン車(①④地域)、セダン車(②③地域)  
 運賃:300円(回数乗車券購入及び乗り継ぎによる割引制度あり)

### 【シャトル便:「はにぼんシャトル」】

事業者名:本庄観光株式会社  
 運行系統:本庄駅～本庄早稲田駅 3.0km  
 運行日:365日  
 運行時間帯:9時～19時  
 運行本数:13.5往復/日  
 運行車両:ワゴン車  
 運賃:200円(回数乗車券購入及び乗り継ぎによる割引制度あり)

## 協議会開催状況

### ○協議会の開催状況

- ・第11回(平成26年5月21日)  
H27年度計画の協議
- ・第12回(平成26年10月23日)  
実証運行の検証、改善点等の協議
- ・第13回(平成27年1月16日)  
H26年度計画の事業評価について協議
- ・平成27年度第1回(平成27年5月26日)  
H28年度計画、改善点等の協議

## 前回の事業評価結果の反映状況

### 【デマンド交通】

高齢者の集いの場である「ふれあい・いきいきサロン(社会福祉協議会の提案事業)」の中で、説明会を開催した。

### 【シャトル便】

市外在住者の利用が多いとの調査結果を受け、乗換検索サイトに時刻表の掲載を依頼した。平成27年3月、運行開始後の乗車人数が1万人に到達した記念として、PRを兼ねた懸賞クイズを広報紙上で実施した。

## 定量的な目標・効果

### 【目標】平成27年度 利用者数

- ・デマンド交通: 26,500人
- ・シャトル便: 17,300人
- ・地域間幹線系統(朝日自動車(株)路線バス): 前年度対比で増加

### 【効果】

- ・デマンド交通の運行により、交通不便地域の解消が図れ、高齢者等の交通弱者の移動手段が確保される。
- ・既存路線バス、デマンド交通及びシャトル便の相互の乗り継ぎにより、公共交通での市内移動が快適に行えるネットワークが形成される。

## 目標効果の達成状況

### 【デマンド交通】

H27年度利用者数: 15,193人

- ・目標に対する実利用者数の割合は57%(前年度:50%)であった。しかしながら、年度別の利用者数は前年度比15%増となっている。利用者数は着実に増加しており、交通弱者の移動手段として定着が進んでいる。

### 【シャトル便】

H27年度利用者数: 10,459人

- ・目標に対する実利用者数の割合は60%(前年度:44%)であった。しかしながら、年度別の利用者数は前年度比37%増となっており、利用者数は着実に増加している。交通結節点である本庄駅、本庄早稲田駅を結ぶ交通手段として定着が進んでおり、市内移動を快適に行えるネットワークの形成に寄与している。

## アピールポイント

路線バス(地域間幹線系統)、デマンド交通及びシャトル便の相互乗り継ぎの促進を図るため、豊富な割引メニューを用意している。

## 今後の改善点

### 【デマンド交通】

需要の顕在化は見られるものの、本質的に対象としている需要は非常に小さい。利用者の年齢層は高い(70歳以上の利用者が過半数である)ことから、需要の掘り起こし及び利用促進を図るにあたり、紙面による周知・PRに工夫を凝らしていく。

### 【シャトル便】

市外在住者の利用が多いという特性を踏まえ、情報発信の方法に工夫を凝らしていく。また、路線定期運行のバスであることから、利用促進策として定期券の導入について検討を進める。

### 【共通事項】

デマンド交通の運行開始後、地域間幹線系統の利用者数が増加している。本庄市内には、合計3社の民間路線バスが運行されていることから、これらの路線と鉄道を含めた地域交通体系の中で、利用促進を図っていく必要がある。